

平成25年6月27日



独立行政法人 製品評価技術基盤機構

製品安全センター

## エアコン及び扇風機による事故の防止について（注意喚起）

これから本格的な夏を迎え、エアコンや扇風機の使用に伴い、事故が増える傾向があります。特に扇風機は、省エネ・節電対策で、古いものを倉庫や物置等から持ち出して使用することも考えられるため、注意が必要です。

NITE製品安全センターに通知された製品事故のうち、エアコン及び扇風機（※1）の事故は、事故発生日でみると、平成19年度から24年度までにエアコンの事故は439件、扇風機の事故は366件ありました。（※2）

エアコンの事故439件について、事故発生状況を現象別に分析すると、次のような事故が多く発生しています。

- ① 電源コードや連絡配線（※3）の継ぎ足しまたは電源コードとプラグ部の接続方法が不適切であったため、接触不良によって発火した。
- ② 洗浄液等が付着し、トラッキング現象が発生し、ショートした。
- ③ 電気部品等が経年劣化によってショートした。

また、扇風機の事故366件について、事故発生状況を現象別に分析すると、「経年劣化による事故」（※4）が多く、次のような状況で事故が多く発生しています。

- ① スイッチを入れたままその場を離れた。
- ② スイッチを入れたまま就寝していた。

エアコン及び扇風機の事故防止のための注意喚起に関しては、これまで平成22年（6月及び8月）、平成23年（5月及び6月）、平成24年（6月）と5度にわたって行ってきたところですが、扇風機については、昨年、製造不良によって首が破損する事故が多く発生しました。ほとんどが製品破損でとどまっていますが、今後とも注意が必要です。全国的に節電要請があり、使用機会が増え、事故も増えることが予想されることから、製品を安全に正しく使用して、事故を防止するため、再度注意喚起を行うこととしました。

（※1）ファンの見えない扇風機やサーキュレーターを含む。

（※2）平成25年5月31日現在、重複、対象外情報を除いた件数。

（※3）室内機と室外機をつないでいる電線。

（※4）製造後長期間経過したり、長期間の使用により性能が劣化したと考えられるもの。

# 1. エアコンによる事故について

## (1) 被害状況及び年度別事故件数について

エアコンの事故は平成19年度から平成24年度までの6年間で439件ありました。被害状況を表1、年度別事故件数及び被害状況を図1に示します。死亡事故が5件（5人）、重傷事故が2件（2人）、軽傷事故が26件（36人）ありました。「火災」は97件（事故全体の22.0%）ありました。毎年度50件以上の事故が発生しています。

表1 エアコンの事故の被害状況 (※5)

被害状況		人的被害			物的被害		被害なし	合計
		死亡	重傷	軽傷	拡大被害 (※6)	製品破損		
エアコン	事故件数	5	2	26	246	159	1	439
	被害者数	(5)	(2)	(36)				(43)
	火災件数(※7)	[5]	[1]	[7]	[84]			[97]

(※5) 平成25年5月31日現在、重複、対象外情報を除いた件数。

被害状況別で、人的被害（「死亡」、「重傷」、「軽傷」）と同時に物的被害（「拡大被害」や「製品破損」）が発生している場合は、人的被害のより重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。また、( )の数字は被害者の人数、[ ]の数字は事故件数の内数で火災の件数。

(※6) N I T Eでは、製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

(※7) 壁や畳、ふすま等の建物や建具の一部以上が焼損した火災のこと。

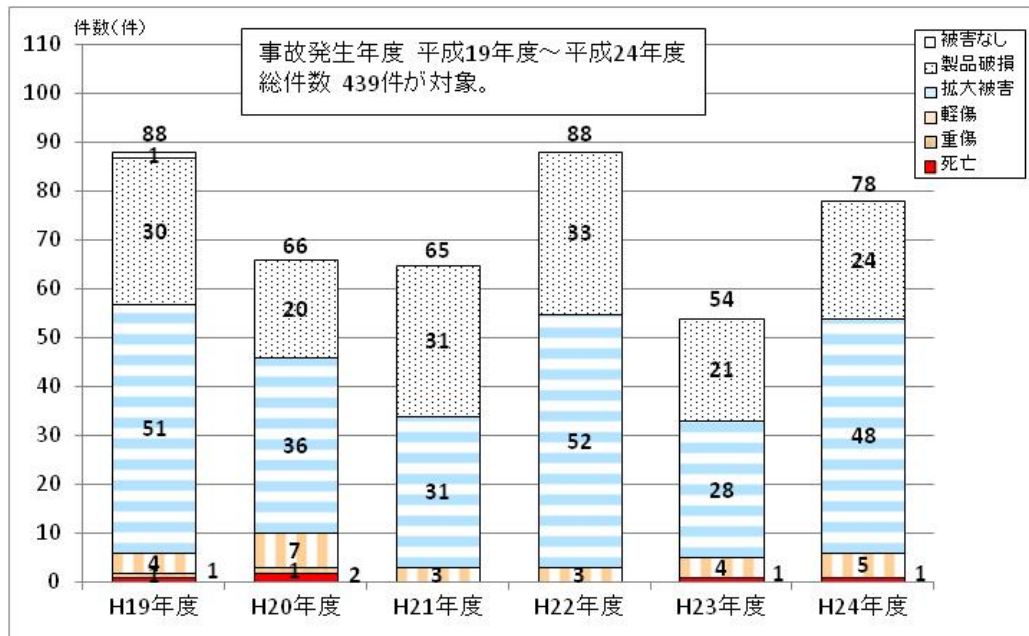


図1 エアコンの年度別事故件数及び被害状況

(2) 月別事故発生件数について

エアコンの事故のうち、事故発生月が判明した438件について、月別事故発生件数を図2に示します。事故は7月に特に多くなっています。また、暖房として使用するため、冬場でも事故が発生し、1月に事故件数が多くなっています。

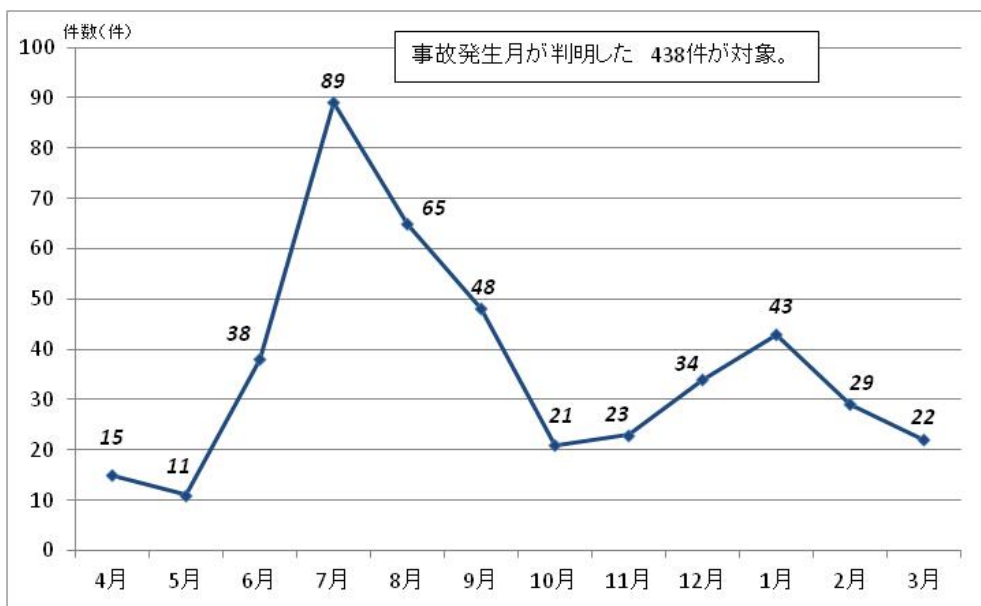


図2 エアコンの月別事故発生件数

(3) 事故の原因と被害について

エアコンの事故原因区分別発生件数を図3に、事故原因区分別被害状況を表2に示します。

「製品に起因する事故（事故原因区分A、B、C、及びG3）」は147件（33.5%）、「製品に起因しない事故（事故原因区分D、E及びF）」は123件（28.0%）でした。

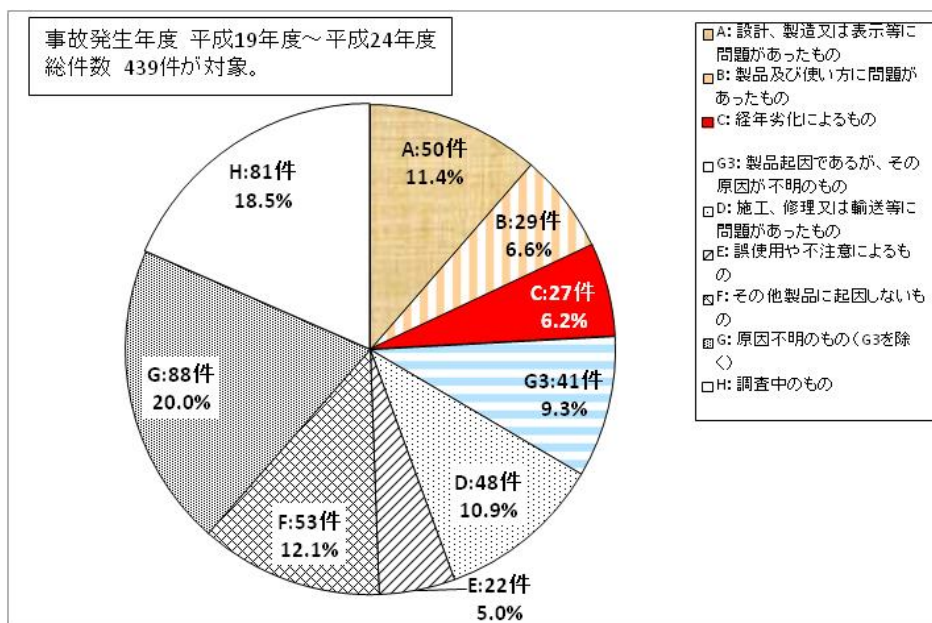


図3 エアコンの事故原因区分別発生件数

「設計、製造又は表示等に問題があったもの（事故原因区分A）」が50件（11.4%）で、物的被害が多くなっています。

人的被害は、「製品に起因する事故」よりも「製品に起因しない事故」で多くなる傾向があります。

表2 エアコンの事故原因区分別被害状況（※5）

現象の内容		被害状況		人的被害			物的被害		被害なし	合計
		死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損				
製品に起因する事故	A: 設計、製造又は表示等に問題があったもの			1 (1)	12 [4]	37			50 (1) [4]	
	B: 製品及び使い方に問題があったもの				5	24			29 (0) [0]	
	C: 経年劣化によるもの			1 (2) [1]	7 [1]	19			27 (2) [2]	
	G3: 製品起因であるが、その原因が不明のもの			2 (2) [1]	23 [10]	16			41 (2) [11]	
製品に起因しない事故	D: 施工、修理、又は輸送等に問題があったもの	1 (1) [1]		6 (9) [1]	33 [11]	8			48 (10) [13]	
	E: 誤使用や不注意によるもの		1 (1)	5 (5)	12 [5]	4			22 (6) [5]	
	F: その他製品に起因しないもの			2 (2)	38 [14]	13			53 (2) [14]	
G: 原因不明のもの (G3を除く)		3 (3) [3]	1 (1) [1]	4 (5) [3]	62 [21]	17	1		88 (9) [28]	
H: 調査中のもの		1 (1) [1]		5 (10) [1]	54 [18]	21			81 (11) [20]	
合計	事故件数	5	2	26	246	159	1		439	
	被害者数	(5)	(2)	(36)	(0)	(0)	(0)		(43)	
	火災件数	[5]	[1]	[7]	[84]	[0]	[0]		[97]	

（※5）平成25年5月31日現在、重複、対象外情報を除いた件数。

被害状況別で、人的被害（「死亡」、「重傷」、「軽傷」）と同時に物的被害（「拡大被害」や「製品破損」）が発生している場合は、人的被害のより重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。また、（ ）の数字は被害者の人数、[ ]の数字は事故件数の内数で火災の件数。

(4) 使用期間別事故発生件数について

使用期間が判明した358件について、使用期間別事故発生件数を図4に示します。使用開始15年以内に事故が多く発生（292件、81.6%）しています。6年を越えると製品起因による事故の割合が高くなっていきます。

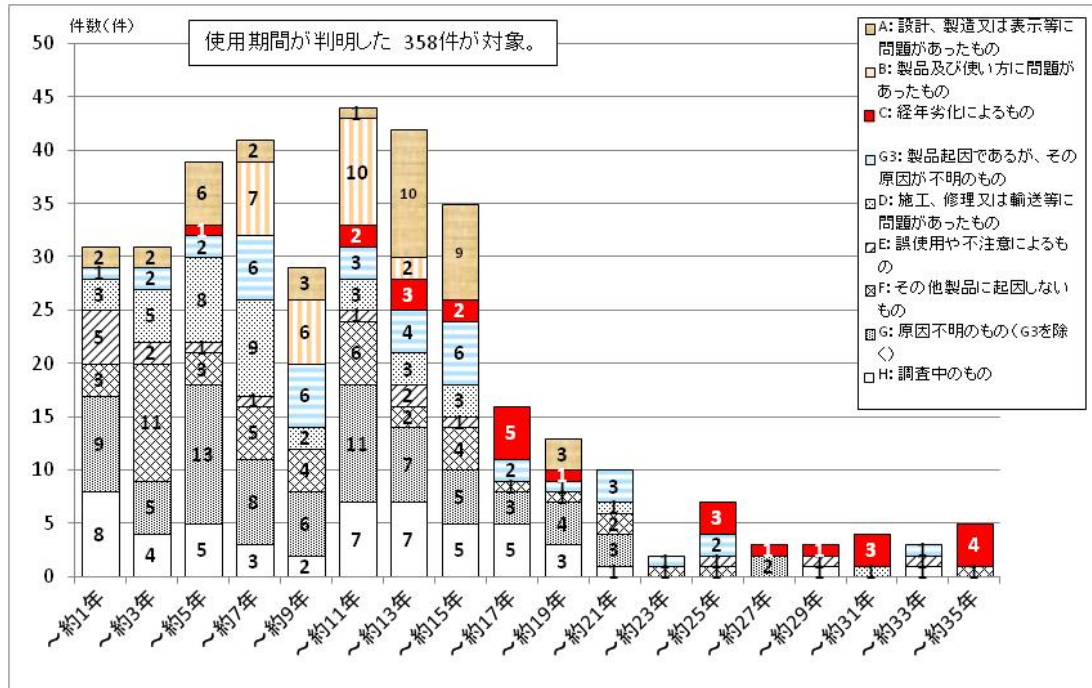


図4 エアコンの使用期間別事故発生件数

(5) 事故の現象別被害状況について

エアコンの事故の現象別被害状況を表3に示します。

事故を現象別にみると、①「電源コードや連絡配線の継ぎ足しまたは電源コードとプラグ部の配線方法が不適切であったため、接触不良によって発火した。」が53件と最も多くなっています。次に多いものは、②「洗浄液等が付着し、トラッキング現象が発生し、ショートした。」で38件となっています。

表3 エアコンの事故の現象別被害状況 (※5)

現象の内容	被害状況	人的被害			物的被害		被害なし	合計
		死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
事故原因区分B、F	①電源コードや連絡配線の継ぎ足しまたは電源コードとプラグ部の接続方法が不適切であったため、接触不良によって発火した。	1 (1) [1]		1 (1)	41 [14]	10		53 (2) [15]
	②洗浄液等が付着し、トラッキング現象が発生し、ショートした。			1 (1) [1]	10 [3]	27		38 (1) [4]
	③電気部品等が経年劣化によってショートした。			1 (2) [1]	7 [1]	19		27 (2) [2]
	④室外機の基板部に小動物等が侵入し、ショートした。				1	5		6 (0) [0]
	⑤熱交換器アルミフィンや回転中のファンに接触して指にけがを負った。		1 (1)	4 (4)	4 [2]	1		5 (0) [2]
	⑥電源プラグにホコリが溜まり、トラッキング現象が発生し、ショートした。				4 [2]	1		5 (0) [2]
	⑦その他			7 (10)	13 [2]			20 (10) [2]
	⑧焼損しているが、電気部品等に発火の痕跡が確認できなかった。				19 [9]	6		25 (0) [9]
A:設計、製造又は表示等に問題があったもの			1 (1)	12 [4]	37		50 (1) [4]	
G:原因不明のもの	3 (3) [3]	1 (1) [1]	6 (7) [4]	85 [31]	33	1	129 (11) [39]	
H:調査中のもの	1 (1) [1]		5 (10) [1]	54 [18]	21		81 (11) [20]	
合計	事故件数 被害者数 火災件数	5 (5) [5]	2 (2) [1]	26 (36) [7]	246 (0) [84]	159 (0) [0]	1 (0) [0]	439 (43) [97]

(※5) 平成25年5月31日現在、重複、対象外情報を除いた件数。

被害状況別で、人的被害(「死亡」、「重傷」、「軽傷」と同時に物的被害(「拡大被害」や「製品破損」)が発生している場合は、人的被害のより重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。また、( )の数字は被害者の人数、[ ]の数字は事故件数の内数で火災の件数。

(6) 事故事例の概要について

エアコンの事故について、現象別に事例を示します。

① 電源コードや連絡配線の継ぎ足しまたは電源コードとプラグ部の接続方法が不適切であったため、接触不良によって発火した。

○平成22年8月25日（広島県、40歳代・女性、拡大被害）

（事故内容）

エアコンのスイッチを入れたところ、吹き出し口から炎が出て、柱の一部が焦げた。

（事故原因）

電源コードの途中のねじり接続（※8）部が接触不良により異常発熱し、発火に至ったものと推定される。

（※8）接続器具を使わずに電線をねじり合わせて電線同士をつなぐ方法。相互の電線の接触が不安定になり、異常発熱等の原因となることがある。

○平成23年6月24日（徳島県、50歳代・女性、拡大被害）

（事故内容）

使用中のエアコンの電源プラグ付近から出火し、壁やコンセントが焼損した。

（事故原因）

電源プラグに外力が加わり、プラグ刃と刃受けに接触不良が生じてプラグ樹脂が絶縁劣化し、プラグ内部でトラッキングが発生して出火に至ったものと推定される。

② 洗浄液等が付着し、トラッキング現象が発生し、ショートした。

○平成23年6月29日（東京都、年代・性別不明、拡大被害）

（事故内容）

エアコン及び周辺を焼損する火災が発生した。

（事故原因）

エアコンの洗浄作業の際に洗浄剤もしくは仕上げ剤がファンモーターのコネクター端子に付着したため、端子間でトラッキング現象が発生し、出火に至ったものと推定される。

③ 電気部品等が経年劣化によってショートした。

○平成23年8月12日（愛知県、年代・性別不明、製品破損）

（事故内容）

エアコンを使用中、エアコンから出火する火災が発生し、エアコンが焼損した。

（事故原因）

長期使用（約24年）により、コンデンサーが絶縁劣化したため、コンデンサー内部でショートし、出火に至ったものと推定される。

④ 室外機の基板部に小動物が侵入し、ショートした。

○平成22年6月9日（広島県、年代・性別不明、拡大被害）

（事故内容）

異臭がしたため確認すると、エアコンから出火する火災が発生し、焼損した。

(事故原因)

室外機の内部に侵入した節足動物と思われる小動物が通電中の基板充電部に触れたため、火災に至ったものと推定される。

⑤ 熱交換器アルミフィンや回転中のファンに接触して指にけがを負った。

○平成21年6月20日（福岡県、年代・性別不明、軽傷）

(事故内容)

エアコンを運転中、掃除をするためルーバー部分に手を入れたところ、回転中のファンに指があたり裂傷を負った。

(事故原因)

運転中にルーバー部分から吹き出し口内部へ誤って指を入れたため回転中のファンに指が接触し、負傷したものと推定される。

なお、取扱説明書には、「掃除をする際には運転を停止し、電源プラグを抜く」旨、記載されていた。

⑥ 電源プラグにホコリが溜まり、トラッキング現象が発生し、ショートした。

○平成22年8月31日（兵庫県、年代・性別不明、拡大被害）

(事故内容)

作動していないエアコンの電源プラグを差し込んでいるコンセント部分から出火し、カーテンを焦がした。

(事故原因)

電源プラグが長期間コンセントに差し込んだままであったため、ホコリ・湿気等が電源プラグ部分に溜まり、トラッキング現象が発生し、発火したものと推定される。



## 2. 扇風機による事故について

### (1) 被害状況及び年度別事故件数について

扇風機の事故は平成19年度から平成24年度までの6年間で366件ありました。被害状況を表4、年度別事故件数及び被害状況を図5に示します。死亡事故が2件（3人）、重傷事故が3件（3人）、軽傷事故が18件（19人）ありました。火災は57件（事故全体の15.6%）ありました。平成24年度は一事業者の社告・リコール製品で、製造不良で首部分が破損する製品破損の事故が116件と多く発生しています。

表4 扇風機の事故の被害状況（※5）

製品名		被害状況	人的被害			物的被害		被害なし	合計
			死亡	重傷	軽傷	拡大被害 (※6)	製品破損		
扇風機	事故件数		2	3	18	112	222	9	366
	被害者数		(3)	(3)	(19)				(25)
	火災件数(※7)		[2]	[3]	[5]	[47]			[57]

(※5) 平成25年5月31日現在、重複、対象外情報を除いた件数。

被害状況別で、人的被害（「死亡」、「重傷」、「軽傷」）と同時に物的被害（「拡大被害」や「製品破損」）が発生している場合は、人的被害のより重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。また、( )の数字は被害者の人数、[ ]の数字は事故件数の内数で火災の件数。

(※6) N I T Eでは、製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

(※7) 壁や畳、ふすま等の建物や建具の一部以上が焼損した火災のこと。

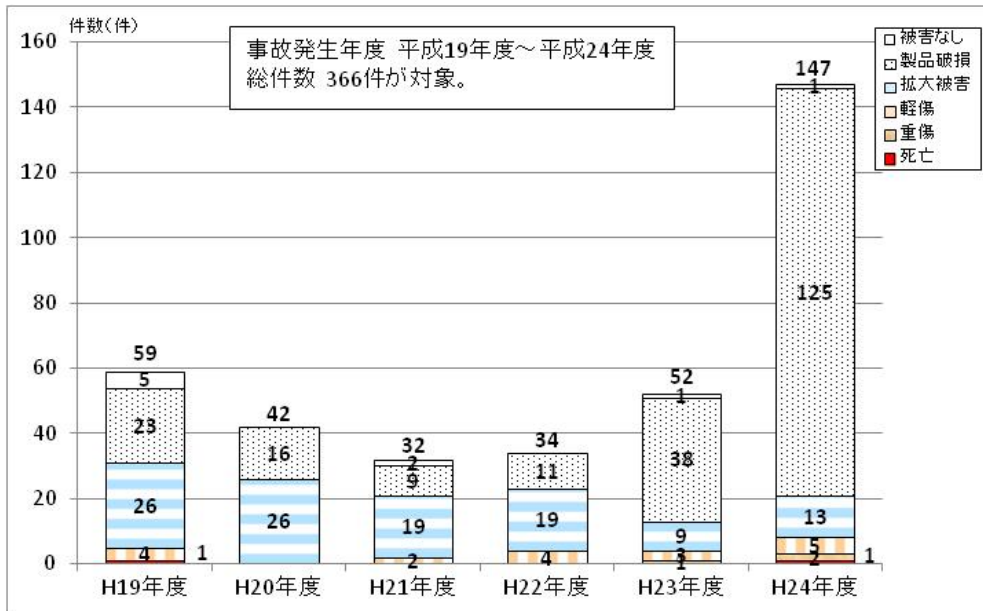


図5 扇風機の年度別事故件数及び被害状況

(2) 月別事故発生件数について

扇風機の事故のうち、事故発生月が判明した365件について、月別事故発生件数を図6に示します。事故は6～9月に多くなっており、7、8月が発生件数のピークになっています。

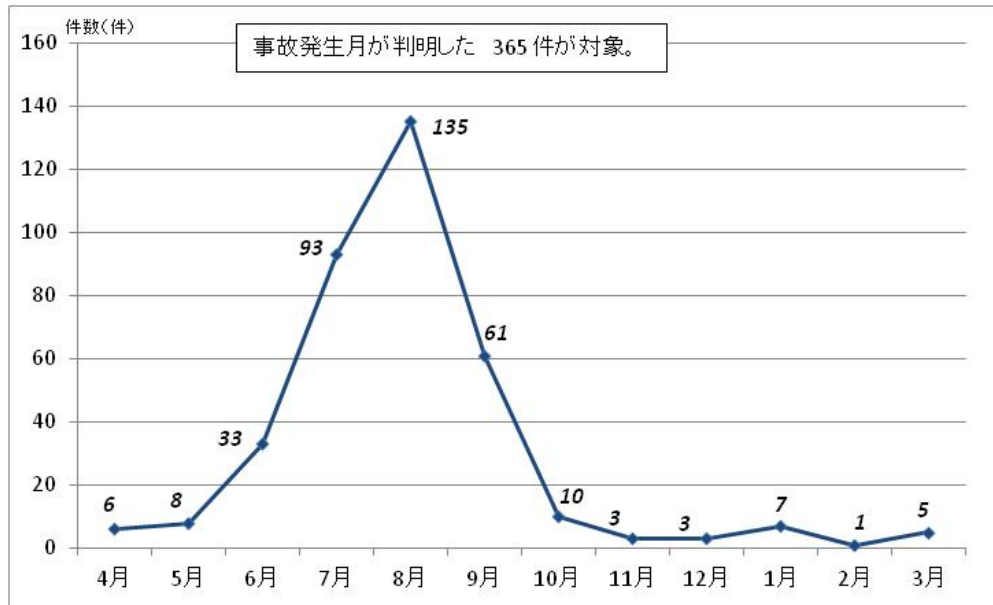


図6 扇風機の月別事故発生件数

(3) 事故の原因と被害について

扇風機の事故原因区分別発生件数を図7に、事故原因区分別被害状況を表5に示します。

「製品に起因する事故（事故原因区分A、B、C、及びG3）」は295件（80.6%）。「製品に起因しない事故（事故原因区分D、E及びF）」は18件（4.9%）となっています。

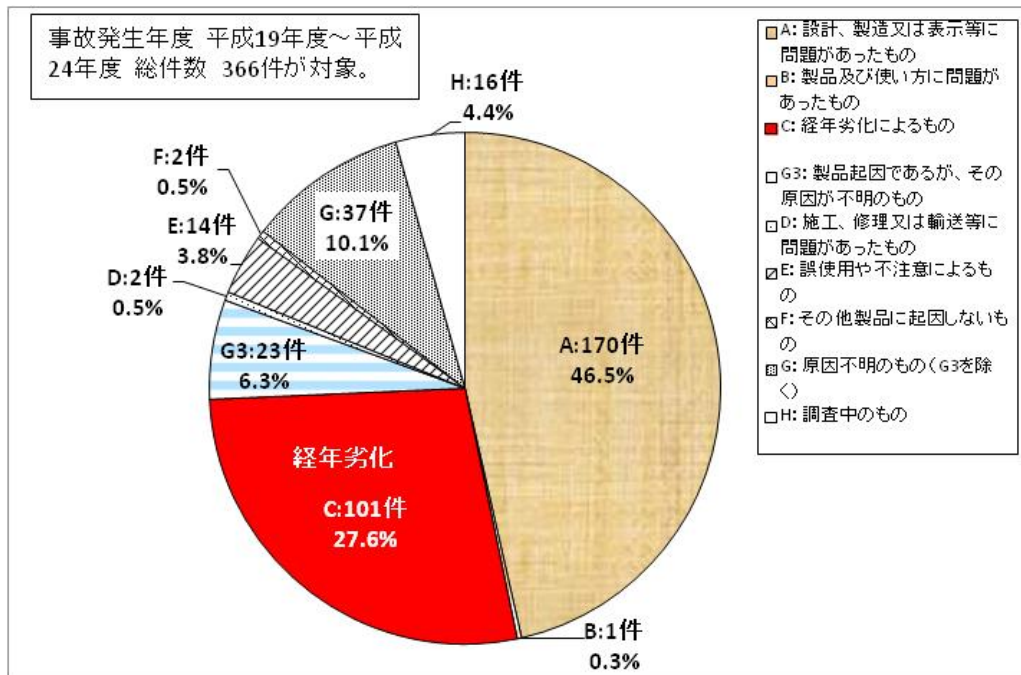


図7 扇風機の事故原因区分別発生件数

特に「長期の使用により性能が劣化したもの（以下、経年劣化という）（事故原因区分C）」は101件（27.6%）で、火災を含む人的被害を及ぼす事故が多くなっています。また、平成24年度は1事業者の社告・リコール製品で、製造不良のために第一部分が破損する製品破損の事故が115件と多く発生しているほか、軽傷1件起きています。

表5 扇風機の事故原因区分別被害状況（※5）

現象の内容		被害状況			物的被害		被害なし	合計
		死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
製品に起因する事故	A: 設計、製造又は表示等に問題があったもの			1 (1)	6	163		170 (1) [0]
	B: 製品及び使い方に問題があったもの					1		1 (0) [0]
	C: 経年劣化によるもの	1 (2) [1]	1 (1) [1]	7 (7) [2]	62 [26]	29	1	101 (10) [30]
	G3: 製品起因であるが、その原因が不明のもの				16 [6]	6	1	23 (0) [6]
製品に起因しない事故	D: 施工、修理、又は輸送等に問題があったもの				1	1		2 (0) [0]
	E: 誤使用や不注意によるもの			4 (5) [1]	3 [1]	7		14 (5) [2]
	F: その他製品に起因しないもの				2 [2]			2 (0) [2]
G: 原因不明のもの（G3を除く）			1 (1) [1]	3 (3) [2]	15 [10]	11	7	37 (4) [13]
H: 調査中のもの		1 (1) [1]	1 (1) [1]	3 (3)	7 [2]	4		16 (5) [4]
合計	事故件数	2	3	18	112	222	9	366
	被害者数	(3)	(3)	(19)	(0)	(0)	(0)	(25)
	火災件数	[2]	[3]	[5]	[47]	[0]	[0]	[57]

（※5）平成25年5月31日現在、重複、対象外情報を除いた件数。

被害状況別で、人的被害（「死亡」、「重傷」、「軽傷」）と同時に物的被害（「拡大被害」や「製品破損」）が発生している場合は、人的被害のより重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。また、（ ）の数字は被害者の人数、[ ]の数字は事故件数の内数で火災の件数。

(4) 使用期間別事故発生件数について

使用期間の判明した287件について、使用期間別事故発生件数を図8に示します。

扇風機では、初期不良等「設計、製造又は表示等に問題があったもの（事故原因区分A）」の事故は6年以上で件数は減少していくものの、「経年劣化によるもの（事故原因区分C）」の事故は使用期間10年以上経過した製品に発生しており30年から経年劣化による事故が顕著に多くなっています。また、使用期間1年未満で「設計、製造又は表示等に問題があったもの（事故原因区分A）」が109件と多くなっていますが、このうち平成24年度に通知された同一事業者の社告・リコール対象製品によるものが97件ありました。

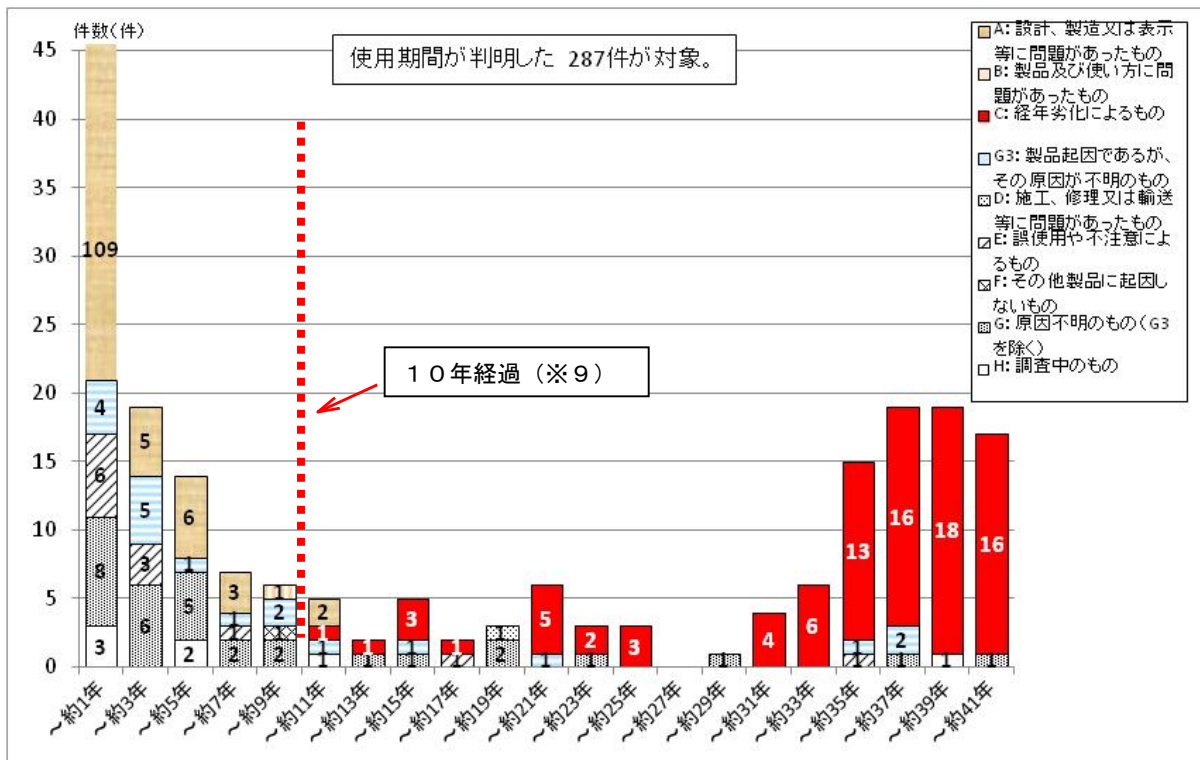


図8 扇風機の使用期間別事故発生件数

(※9) N I T Eでは、通常考えられる使用環境で一定期間（10年を目処）経過後に、部品等の性能が劣化したことによって発生したと考えられる事故を経年劣化による事故としている。

(注) 経年劣化のメカニズムについて

扇風機の経年劣化事故において原因となる部品・部位は、主にコンデンサー及びモーターです。

① コンデンサーが主原因のメカニズム

コンデンサーは、電気エネルギーを蓄えたり放出したりする電気部品です。扇風機では、モーターを一方向にスムーズに回転させたり電気を有効に利用するためにコンデンサーを使います。古いものでは、絶縁物に油やロウが使われており、長期間の使用によって油が酸化するなどして絶縁性能が劣化します。絶縁性能の劣化が進み、コンデンサー自体の発熱で油が噴出し、発火することがあります。

コンデンサーが劣化すると、モーターの回転が不安定になったり異音や異臭がしたりします。

② モーターが主原因のメカニズム

モーターは、扇風機のファンの回転や首振りに使われます。長期間の使用によるコンデンサーの劣化で、モーターが回転しにくくなるほか、モーターの潤滑油の減少によって、摩耗や錆などが発生したり、モーターが回転しにくくなります。モーターが回転しにくくなると、モーターのコイルに大きな電流が流れ、発熱やショートを起こし、周辺のコロリや可燃物に着火することがあります。

また、モーターのコイルや配線の被覆が、長期間の使用で絶縁劣化、剥離・脱落してショートを起こし、周辺のコロリや可燃物に着火することがあります。

モーターが劣化すると、スイッチを入れたとき、唸り音や擦れるような音がしたりファンが回らなくなったり、回転速度が不規則になったりします。

(5) 事故の現象別被害状況について

扇風機の事故の現象別被害状況を表6に示します。

事故を現象別にみると、電気部品等（コンデンサーやモーター）の劣化が多くなっており、人のいない状況で事故が多発しています。また、就寝中の事故は、人的被害に至ることが多くなっています。

表6 扇風機の現象別被害状況 (※5)

被害状況 事故の内容	人的被害			物的被害		被害なし	合計	
	死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損			
①長期の使用により、コンデンサー等の絶縁不良・過負荷等となり、ショートした。	1 (2) [1]	1 (1) [1]	7 (7) [2]	62 [26]	29	1	101 (10) [30]	
スイッチを入れたまま、その場を離れた（外出等）。		1 (1) [1]	3 (3)	33 [16]	8		45 (4) [17]	
就寝中に使用していた。	1 (2) [1]		4 (4) [2]	14 [4]	9		28 (6) [7]	
使用状況が不明。				15 [6]	12	1	28 (0) [6]	
②首振りによる繰り返しの機械的ストレスで半断線し、ショートした。			1 (2) [1]	2 [1]			3 (2) [2]	
③隙間から指が入り、回転中のファンと接触し、けがを負った。			2 (2)				2 (2) [0]	
④電源プラグの栓刃間に針金等の金属が接触して発火し、焼損した。				1	1		2 (0) [0]	
⑤その他			1 (1)	3 [2]	8		12 (1) [2]	
A：設計、製造又は表示等に問題があったもの			1 (1)	6	163		170 (1) [0]	
G：原因不明のもの		1 (1) [1]	3 (3) [2]	31 [16]	17	8	60 (4) [19]	
H：調査中のもの	1 (1) [1]	1 (1) [1]	3 (3)	7 [2]	4		16 (5) [4]	
合計	事故件数 被害者数 火災件数	2 (3) [2]	3 (3) [3]	18 (19) [5]	112 (0) [47]	222 (0) [0]	9 (0) [0]	366 (25) [57]

(※5) 平成25年5月31日現在、重複、対象外情報を除いた件数。

被害状況別で、人的被害（「死亡」、「重傷」、「軽傷」）と同時に物的被害（「拡大被害」や「製品破損」）が発生している場合は、人的被害のより重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。また、( )の数字は被害者の人数、[ ]の数字は事故件数の内数で火災の件数。

(6) 事故事例の概要について

扇風機の事故について、現象別に事例を示します。

① 経年劣化により発煙・発火した。

○平成23年7月11日（宮城県、80歳代・女性、重傷）

（事故内容）

使用中の扇風機付近から出火して、住宅を全焼し、1人が重度のやけどを負った。

（事故原因）

長期使用により、モーター巻線の絶縁が劣化し、巻線間のショートによる異常発熱やスパークが発生して周囲のホコリ等に着火し、出火に至ったものと推定される。

なお、製造から30年経過していた。また、スイッチを入れたまま、その場を離れていた。

○平成23年8月16日（東京都、年代・性別不明、軽傷）

（事故内容）

扇風機を使用中、扇風機から出火する火災が発生し、1棟が全焼、4棟に延焼、1人が気道熱傷を負った。

（事故原因）

長期使用（約40年以上）によって、コンデンサーの絶縁性能が低下し、コンデンサー内部でショートしたために出火に至ったものと推定される。

○平成23年9月2日（熊本県、80歳以上・女性、拡大被害）

（事故内容）

扇風機を使用中、扇風機から出火する火災が発生し、扇風機及び周辺が焼損した。

（事故原因）

長期使用（約39年）により、モーターコイル部に巻線間のショートが生じたため、過熱し、出火に至ったものと推定される。

② 首振りによる繰り返しの機械的ストレスで半断線し、ショートした。

○平成21年6月25日（神奈川県、80歳以上・女性、製品破損）

（事故内容）

使用中の扇風機から「シュー」という音がして発煙、発火し、後方モーター一部分のプラスチックが焦げた。

（事故原因）

首振り部の配線に繰り返し曲げる力が加わり、断線・ショートし、スパークしたものと推定される。

### 3. エアコン及び扇風機の事故の防止について

これまで5度にわたってエアコン及び扇風機の事故防止のための注意喚起をしましたが、依然として事故が発生しています。エアコン及び扇風機による事故を防止するため、次の点に注意してください。

#### (1) エアコン

- ①電源コードは、テーブルタップや延長コードなどで延長しないでください。エアコンは、消費電力が大きいいため、延長コード等を使用すると、トラッキング現象や接触不良が生じる箇所（差込プラグとコンセントの接続部）が増え、事故発生の確率が高まります。
- ②エアコン室内機の内部洗浄は、購入店またはメーカーの修理窓口にご相談するか、取扱説明書に従ってください。不適切な洗浄方法では、エアコン洗浄液等が、電源配線、電源基板及びファンモーター等の電装部品に付着してトラッキング現象が生じ、発煙・発火するおそれがあります。
- ③エアコンを長期間使用しないときは、節電も兼ねてコンセントから電源プラグを抜くとともに、電源プラグのホコリを乾いた布等で定期的に掃除してください。
- ④エアコンに次のような症状がある場合は、すぐに使用を中止し、電源プラグを抜いて、購入店またはメーカーの修理窓口にご相談してください。
  - ・ 電源コードや電源プラグが異常に熱い。
  - ・ 電源プラグが変色している。
  - ・ 焦げくさいにおいがする。
  - ・ ブレーカーが頻繁に落ちる。
  - ・ 異音がする。
  - ・ 室内機から水漏れがする。
  - ・ 架台や吊り下げ等の取付部品が腐食していたり、取付がゆるんでいる。
- ⑤エアコンの室外機の周りには、ダンボールやゴミ、植木鉢などの小動物が集まりやすくなるような物を置かないでください。電源基板に異物（ナメクジ、昆虫等）が侵入・付着することによりトラッキング現象が発生し、ショート・発火するおそれがあります。
- ⑥フィルター等の掃除を行う際には運転を停止し、電源プラグを抜いてから行ってください。運転中の室内機及び室外機の吹き出し口や吸込口に指や棒などを入れないでください。回転ファンに巻き込まれて、けがや故障の原因となります。
- ⑦エアコンの室外機の設置環境に気をつけてください。海辺の近くなど、環境によっては経年劣化を促進してしまうことがあります。製品によっては、素材や構造で対策が取られているものもあります。



## (2) 扇風機

①扇風機は、製造から10年以上経過した製品に経年劣化による事故が発生しており、30年から経年劣化による事故が多発する傾向があります。そのため、10年以上経過した扇風機について以下のことに注意して使用してください。

中でも製造から30年以上経過している扇風機は、就寝中や人のいない所で使用しないでください。

使用中に次のような症状がみられる場合は、直ちに電源プラグをコンセントから抜いて使用を停止し、適切に廃棄してください。特に、押入れなどから古い扇風機を持ち出して使用する場合など長期間使用していない扇風機は、次のような症状が出やすいため、十分に注意してください。

- ・ スイッチを入れても、ファンが回らない。
- ・ ファンが回っても、回転が異常に遅かったり不規則だったりする。
- ・ 回転するときに異常な音や振動がする。
- ・ モーター部分が異常に熱かったり、焦げくさいにおいがする。
- ・ 電源コードが折れ曲がったり破損したりしている。
- ・ 電源コードに触れると、ファンが回ったり、回らなかったりと不安定である。

なお、扇風機の経過年数を調べる際には（参考）1. を参照してください。

②水分がかかるような使用はしないでください。扇風機に水滴がかかると、電気回路がショートして発火するおそれがあります。

(参考)

1. 製品の経過年数は、次のホームページで確認することができます。

長年ご使用の扇風機についてのお知らせとお願い

(一般社団法人日本電機工業会)

URL <http://www.senpu-ki.jp/anzen/index.html>

「設計上の標準使用期間」を超えた扇風機については、扇風機に表示されているラベルや取扱説明書に従って対応をするようにしてください。

2. 長期使用製品安全点検制度及び長期使用製品安全表示制度

平成21年4月1日に、消費生活用製品安全法が改正され、長期間の使用に伴い生ずる劣化（経年劣化）により安全上支障が生じ、特に重大な危害を及ぼすおそれの多い製品について「長期使用製品安全点検制度」が始まりました。また、経年劣化による重大事故発生率は高くないものの、その残存数が多く、事故件数が一定程度発生している製品について、消費者等に長期使用時の注意喚起を促すため「長期使用製品安全表示制度」が始まりました。

○長期使用製品安全点検制度（9品目）

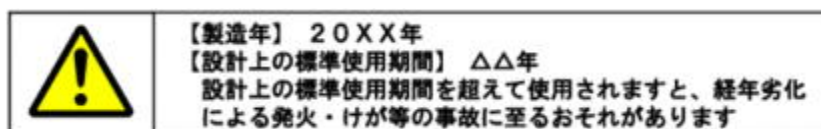
屋内式ガス瞬間湯沸器（都市ガス・LPガス）、屋内式ガスふろがま（都市ガス・LPガス）、石油給湯機、石油ふろがま、密閉燃焼式石油温風暖房機、ビルトイン式電気食器洗機、浴室用電気乾燥機

○長期使用製品安全表示制度（5品目）

扇風機、エアコン、換気扇、洗濯機、ブラウン管テレビ

長期使用製品安全表示制度の対象製品には、「製造年」、「設計上の標準使用期間」、「設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火・けが等の事故に至るおそれがある旨」が表示されています。

図 表示例



表示の部位については、経済産業省のホームページにあります「表示例集」をご参照ください。

URL :

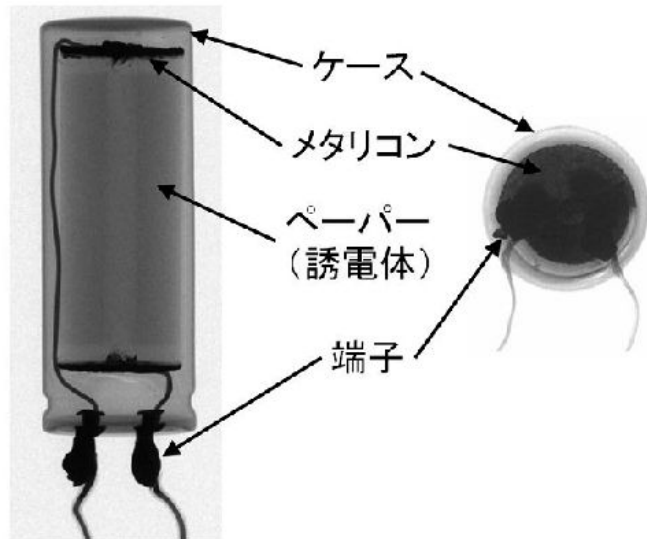
[http://www.meti.go.jp/product\\_safety/producer/shouan/07kaisei.html](http://www.meti.go.jp/product_safety/producer/shouan/07kaisei.html)

### 3. コンデンサーの種類について

扇風機に使用されるコンデンサーは主に2種類あります。1970年頃まではMPコンデンサーでしたが、最近ではMFコンデンサーが主流となっています。

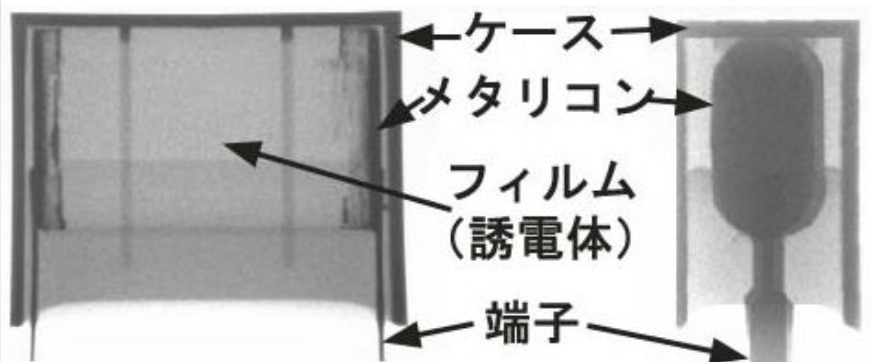
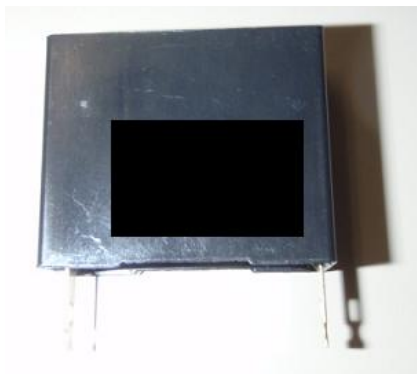
#### (1) MPコンデンサー（メタライズドペーパーコンデンサー）

油を含ませた絶縁紙を誘電体として、表面に薄い金属蒸着膜（亜鉛等）を持った金属化紙（MP）を巻き上げて構成される。



#### (2) MFコンデンサー（メタライズドフィルムコンデンサー）

プラスチックフィルムを誘電体として、表面に薄く金属蒸着（アルミ等）をした金属化フィルム（MF）を巻き上げて構成される。



種類	電極	誘電体	構造	外部端子との接続	外装
MP	紙上に金属蒸着	紙にオイルを含浸	巻き上げ	メタリコン (金属溶着)	金属ケース
MF	プラスチックフィルムに金属蒸着	プラスチックフィルム	巻き上げ	メタリコン (金属溶着)	非金属ケース 樹脂封口等

#### 4. ヒューズについて

最近では、電気部品等の温度上昇による火災を予防するため、扇風機には温度ヒューズ（※10）または電流ヒューズ（※11）が組み込まれ、異常な発熱を防止することにより安全性が高められた製品が販売されています。

（※10）周囲温度が上昇し設定温度に達すると溶断し、電気回路を遮断させるヒューズ。非復帰型の保護装置として使用される安全装置。

（※11）過電流による自己発熱を利用して溶断し、電気回路を遮断させるヒューズ。非復帰型の保護装置として使用される安全装置。

## 5. エアコン及び扇風機の事故の社告・リコール製品について

N I T Eに通知されたエアコン及び扇風機の事故のうち、平成19年度から平成24年度までに発生した事故は、エアコンは439件、扇風機は366件あり、そのうち社告・リコールを行った製品による事故は、エアコン86件、扇風機211件ありました。このうち、エアコンでは66件、扇風機では41件の事故が社告・リコール後に発生しています。「リコール製品での事故の製品別の被害状況」を表1に示します。「リコール製品での再発事故の製品別の被害状況」を表2に示します。(なお、社告・リコールには消費者への注意喚起等を含みます。)

また、N I T Eでは、事業者等が行ったリコール情報を同一形式に編集し公開しています。

(<http://www.nite.go.jp/jiko/index4.html>)

以下からリコール情報の検索もできます。

<http://www.jiko.nite.go.jp/php/shakoku/search/index.php>

(検索サイトを利用する場合には、「N I T E」、「リコール」等の言葉で検索してください)

※注意喚起ちらし、注意喚起リーフレット、P Sマガジンでも社告・リコール情報を提供しています。

<http://www.nite.go.jp/jiko/chirashi/chirashi.html>

<http://www.nite.go.jp/jiko/leaflet/leaflet.html>

<http://www.nite.go.jp/jiko/psm/index.html>

表1 リコール製品での事故の製品別の被害状況 (※5)

被害状況 製品の種類	人的被害			物的被害		被害なし	合計
	死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
エアコン			1 (2)	26	59		86 (2)
扇風機	1 (2)		10 (10)	51	149		211 (12)
合計	1 (2)	0 (0)	11 (12)	77 (0)	208 (0)	0 (0)	297 (14)

表2 リコール製品での再発事故の製品別の被害状況 (※5)

被害状況 製品の種類	人的被害			物的被害		被害なし	合計
	死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
エアコン				13	53		66 (0)
扇風機			5 (5)	27	9		41 (5)
合計	0 (0)	0 (0)	5 (5)	40 (0)	62 (0)	0 (0)	107 (5)

以上